

外国人のおかげ

西澤見小五年二組

湯浅

令矢

ぼくが通っている西澤見小学校は、全校二百人くらいの学校で、その中の半分以上が外国人の生徒です。ブラジル人、かん国人、ペルー人などがいて、特に多いのがブラジル人です。

ぼくのクラス五年二組は、その中でも特に外国人生徒が多いです。

でもぼくは、特に外国人だなと思っただ事はありません。少し日本語が苦手な子がいるくらいで、それ以外の子は他の日本人とほとんど変わらないからです。

それにはぼくが、保育園の時からおとまりだっただのと、ぼくの住んでいる保見団地にはたくさん外国人の人が住んでいるからだと思います。

だから、ふだんのべん強や、遊びなとともち仲良くなっています。

自分の国の言葉や歌などを教えてくれたり、

バザールやお祭りの時は、ブラジルのサンバや  
りよう理をひろうしてきます。

でもふだんは、ほうかにサッカ―したり、  
ゲームやテレビの話をしたりというのは、日  
本の子ども達と変わりません。

時どき、ゴミステーションなどに、捨てて  
はいけないゴミなどが捨ててあったりします  
そををよく外国の人のせいにしてみましたが  
ちですが、悪い事をするのは、日本人も同じ  
だと思えます。

外国の人にもきちんとして日本のルールを教  
えてあげればしっかりと守ってくれます。

あるブラジルの人のおかげで、ぼくの住ん  
でいる所のゴミステーションは、とてもきれ  
いになりました。

このように、ぼくは日本人も外国人も関  
係なく、おたがいのいい所を出しあって助け  
合いながら、仲良くしていけたら、今よりも  
っと生活が良くなるのではないかと思いまし  
た。